

第662回

I B C番組審議会 議事録

－議 題－

「いのち。伝えたい お産を繋ぐ～県立釜石病院分娩休止～」

2021年7月28日（水）

（株）I B C 岩手放送

第662回IBC番組審議会

1. 開催日時 2021年7月28日(水)

2. 開催場所 書面開催

3. 委員の出席

委員総数	10名
出席委員	9名
出席委員の氏名	
委員長	田代 高章
副委員長	熊谷 志衣子
委員	郷右近 勤 高橋 司
	小松 務 片岡 千夏
	新里 真士 澤口 たまみ
	龍澤 尚孝
欠席委員	藤野 静枝
会社側出席者	
鎌田 英樹	代表取締役社長
眞下 卓也	常務取締役
若槻 修	報道制作局長
宿輪 智浩	報道部長
武田さおり	報道部
事務局	
平澤 泰志	番組審議会事務局長
向井田 真衣	番組審議会事務局員
吉田 美涼	番組審議会事務局員

4. 議題 「いのち。伝えたい お産を繋ぐ～県立釜石病院分娩休止～」
2021年7月22日(木)
午前10時50分～11時20分放送

5. 議事の概要

＜委員の主な発言＞

○釜石市で常勤の産科医がいないというのは、驚きだった。助産師さん、妊婦さん目線で番組がスタートし、地域住民が抱えている問題をわかりやすく伝えられていた。種々の立場の方々の意見が偏りなく構成されており、とても好感が持てた。

○問題点が凝縮され、さまざまなことを考えさせられる好番組だった。地域に分娩を取り扱う病院がなくなるだけでも地域にとっては大変なことだが、お産がなくなること子ども数がさらに減り、地域の将来が暗くなることを心配している。「子どもは未来。釜石の未来がなくなってしまう」というコメントに集約されている。

○常々医師不足についてはわかっていたが、これを機会に広く問題を提起して改めて一つの県民問題として取り上げてもらえればと願う。

○釜石病院に15年つとめている看護師兼助産師のお話から、お産の持っている生きる、産まれるパワーを実感させられた。赤ちゃんの声は、他の科の患者さんにもパワーをあたえるとの言葉が心に残り、本当に大切な事と思った。

○本来行政が担うべき医療・福祉の充実について、民間の支援に頼らざるを得ないのか、行政側はこれまで何を検討してきたのかという疑問も抱かせる。

○今回の番組で「釜石病院の分娩休止は避けるべきである」との考えを強く持った。さまざまな問題があるこそ、ここで改善の努力をしてゆかなければ、少子化にも医師不足にも歯止めがかからず、加速していく一方ではないかと不安になった。

○安心して子供を産み育てる環境を作っていくことの大切さを考えるととても良い番組だった。番組冒頭の妊婦さんのエコーの様子が少しリアルだった。

○出産にかかわる医療技術については、昔とは随分変わり高度な総合医療が必要であることや、ドクターヘリを活用した周産期緊急搬送システムなど県全体での総合的医療提供体制の整備実態なども、もう少し取材や説明をすれば良かった。